



鹿児島県立甲南高等学校

進路指導室だより

令和2年度 第7号(11月10日発行)



動から静へ 2020 ～『全集中』 甲南の呼吸 君の型～

3年5組副担任 脇田 健吾

甲南高校に来て9年目の半年が過ぎた。本校では毎年10月初旬が『動から静へ』の転換期である。甲南高校の学校行事の多くは、年度前半に集中しており、後半は自分自身を見つめる期間であるといえる。だが、実際のところは各部活動の新人戦も始まり、課題研究なども佳境に入り始める。では、なぜこんな忙しくなる時期に『動から静へ』なのか。学年(2年生は高校生活)の後半に入り、今までゆれ動いていた自分の進路に対する思いや進路志望を固める時期に入る。他へ向いていた気持ちを、自分の進路目標の実現と部活動等の両立の一層の充実に向き換える。日常生活を落ち着いて過ごし、基礎学力と生活習慣、受験に向けた土台を築くことに集中する。つまり、目に見える『静』ではなく、皆さん一人ひとりの『内面における動から静への転換期』なのである。今年度はコロナウィルス対策のため、部活動の大会の中止や延期、学校行事も色々と変更が多く、みんな辛い思いをしている。そのためか今年度については、『動から静へ』の転換はある程度の基板が出来ていたように思える。例年以上に、「授業1コマに向かう前向きな姿勢」、「1つの行事をしっかりと味わおうとする姿勢」、「自分の将来のことを真剣に考える姿勢」が備わっているように思う。何気ない日常への感謝の心、身の回りへの謙虚な姿勢が感じられることが多い。毎年、各学年の後半の頑張りには驚かされる。この後半の『静』の努力が甲南高校を支えていると確信している。全員に期待したい。

さて、今、世間では「鬼滅の刃」が空前の大ブームとなっている。勿論、私も全巻読んでいるわけだが、このアニメは大正時代を舞台に主人公の炭治郎が鬼と化した妹を人間に戻す方法を探すために戦う姿を描く和風剣戟奇譚(wikipediaより)である。私も色々なアニメを見てきたが、どのアニメも人間にとって大事なことを教えてくれる(個人的見解です)。「鬼滅の刃」の場合、今回は2つ。1つ目は、『♪強〜く〜なれ〜る〜理由を知〜った〜』である。TVアニメ主題歌の歌詞であり、キャラクターたちの思いを如実に表すフレーズ。誰のために頑張るのかということである。昔、家族を喜ばせようと何かを頑張ったことがありますか？チームのために歯を食いしばって頑張ったことはないですか？誰のためにと聞かれると、勿論自分のためである。だが、そこにもし誰かのためという思いが加わったとすれば強い。2馬力にも3馬力にもなり得る。ある先生はこれを『他喜力』と呼んでいました。友人や家族、先生、まだ見ぬ誰か、日本、地球かもしれない。何だかもうひと頑張りできそうではありませんか。2つ目は、『全集中、〇〇の呼吸、〇の型』である。全集中はここぞという場面での極限集中のこと、呼吸はそれぞれの流儀のようなもので型は空手道の形のようなものである。いよいよ後半『静』の時期が始まったが、何事にも『全集中』で、甲南高校生の各学年として今何をすべきかを考えつつ、つまり『甲南の呼吸』で、皆さんそれぞれの型『君の型』で、先のことはわからないけれども、今の世の中に憂うことなく、自信をもって歩いていこう。最後に私の大好きな言葉を贈りたい。君たちならやれる。いつも笑顔で甲南ライフを満喫しよう。

**人は変わる。そして、
変わった瞬間から加速的に変化をし続ける生き物である。**

1 年生

文理選択のために、自分を知るための努力をしていますか。

先日、文理選択の一回目調査がありましたが、どのくらい自分のことについて調べた上で選択したのでしょうか。文理選択をする上で考えることは、自分の興味・関心をよく見つめ直すことです。「自分は何が好きであるのか。」からはじめて、「自分の将来像や社会にどのように貢献したいのか。」を考えてほしい。今年度からの大学入試改革により、大学入学共通テストが始まるなど、入試制度も変わります。文理融合型の学部や入試制度もありますが、多くの大学が文系型・理系型の学部に分かれており、入試制度でも分けられています。つまり、文系からは文系型の学部、理系からは理系型の学部しか受験ができません。色々な方に相談してもよいですが、最後は明確な理由を持って自分で決断しよう。

※ 苦手な教科があるから、友だちが行くから、などという安易な理由で決めないこと。

2 年生

進路志望を固めるために、保護者と会話をしていますか。

高校生活も半分を過ぎました。文系・理系に進んだものの、具体的に何大学の何学部・何学科を志望するか固まっているのでしょうか。決まっていない者は、日々の中で何か見つかるような努力や工夫をして生活しているのでしょうか。学習・部活動に加えて課題研究など、慌ただしく充実した毎日を過ごしているので、進路について考えることを先延ばしにしていないのでしょうか。自分の将来について大きな決断をする第一歩が、高校卒業後の進路決定です。多くの者が来年18歳で成人となります。社会の一員として責任を持つ立場になります。今考えましょう。そして、保護者にその考えを伝え、理解してもらいましょう。そのためには、大学について知る必要があると思います。まずは大学のアドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）について知ることです。それが、学校選びや入試の傾向をつかむ手がかりになります。興味のある学校については、ホームページ等にアクセスすることを薦めます。

3 年生

志望校を受験校にするために、過去問等に挑戦していますか。

大学入学共通テストまであと2か月余り。毎週対外模試等が続いていますが、日々の学習をどのように取り組んでいますか。共通テストに向けては、センター試験の過去問を解く中で、自らの苦手分野や知識の抜け・漏れを一つずつ無くしていきましょう。ただ、今の志望校を受験校にするために必要なことは、志望校の過去問（赤本や青本など）や大学別のオープン模試を受験することで、個別学力試験に必要な記述力の難易度を把握しておくことです。共通テストが終わってから国公立大学の前期試験(2/25)までは、約1か月しかありません。その段階から過去問を始めたのでは、とても対策が間に合いません。受験は、日に日に近づいています。今は時間を確保した上で学習内容の質を高める時です。共通テストまで時間がある今だからこそ、志望校の過去問等に挑戦し、それを踏まえた学習を実践してほしいです。

※ 国公立大学の過去問等は、進路資料室で閲覧できます。大いに活用して下さい。